

IT 活用実践事例

小学校
5年
家庭

いろいろな縫い方に挑戦しよう

実践者：大崎市立古川第一小学校 佐々木 潤

1 学習の概要

キーワード

実物投影機

作品の拡大投影

教師の示範の拡大投影

児童の発表

IT 活用のポイント

- ・ 玉結び、玉どめ、なみ縫い、返し縫いなど細かい作業の説明をするときに教師の示範を実物投影機で写し、プロジェクターで拡大提示する。また、児童の工夫した縫い方、作品なども拡大して発表させるなど、細かい作業を説明したり、児童の作品や工夫を発表させるときにも効果的である。

単元名

針と糸を使ってみよう。

単元の目標

手縫いの製作に関心をもち、用具の安全な使い方が分かると同時に、針と糸で簡単な縫い方ができる。

本時の学習

針と糸に慣れよう。

本時の目標

玉結び、玉どめ、一針ずつの縫い方が分かり、縫うことができる。

本時の活用機器

- ・ 実物投影機
- ・ プロジェクター
- ・ マグネットスクリーン

補助資料

- ・ 縫い方見本
- ・ 作品見本

単元計画（8時間扱い）

- 1 針と糸に慣れよう（2）（1/2 本時）
 - ・ 針と糸を使ってどんなことができるか話し合う。
 - ・ 針と糸を使ってネームプレートを作るのに必要な用具について調べる。
 - ・ スクリーンに拡大提示された、教師の玉結び、玉どめ、一針ずつの縫い方の示範を観察する。（IT 活用場面）
 - ・ 玉結び、玉どめをする。
 - ・ 児童の上手な縫い方を拡大提示して紹介する（IT 活用場面）
- 2 針と糸を使って作ってみよう（6）
 - ・ 教科書の図やスクリーンに拡大提示された教師の示範を基になみ縫い、返し縫いや、かがり縫いをする。（IT 活用場面）
 - ・ それぞれに工夫した縫い方をスクリーンに拡大提示し、発表する。（IT 活用場面）
 - ・ 自分の作りたい小物を考え、どんな縫い方をしたらよいかを決め、製作する。

本時の学習（45分 1/2）

学習活動

- 1 針と糸を使ってどんなことができるか話し合う。
- 2 裁縫道具の扱い方を知る。
- 3 糸の通し方、玉結び、玉どめ、繰り返し縫いの方法を知る。
- 4 玉結び、玉どめ、繰り返し縫いの練習をする。
- 5 実物投影機で児童が縫う様子を発表させる。

指導上の留意点

- 2 実物投影機で用具を拡大提示し、用具の名前や取り扱い方を確認する。
- 3 糸の通し方、玉結び、玉どめ、一針ずつの縫い方の方法について、実物投影機で拡大提示された教師の示範を見ながら一緒に練習をする。
- 5 上手にできるようになった児童の玉どめや、縫う様子を拡大提示して紹介する。

2 実践のポイント！

細かい物を大きく提示

- ・ 実物投影機とプロジェクターを活用することにより教師の示範を拡大提示することができるので、**細かい作業について一斉指導するときに効果的**である。
- ・ 示範するときには糸や縫い目が目立つように赤などの色の糸を使用すると分かりやすい。
- ・ マグネットスクリーンを活用すると画像に直接書き込みができるので補足説明がしやすい。

この方法は一斉指導の場面に適しているが、最終的には教師の個別指導などの配慮が大切。

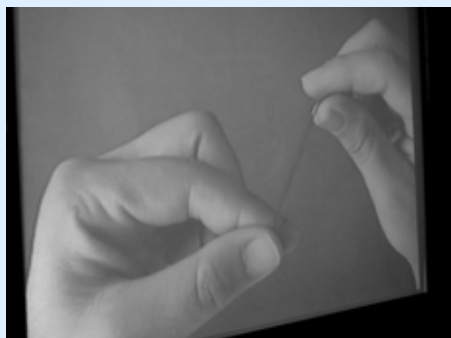
集中力の持続

イラストや写真だけでは表現できない部分について、**拡大提示をしてゆっくり説明をしながら示範する**。縫い方が苦手な児童も教師と同じ手順と一緒に活動することができるので、集中力が持続しやすい。



児童の発表の場として

縫い方の工夫や、作品の紹介など**児童の発表の場**としても活用することができる。



縫い方以外の説明にも

縫い方の説明だけではなく、ナップザック作り等の作業過程を拡大して見せることにより、口あきのような**難しい作業の説明も容易にできる**。



3 子どもたちは？

子どもの姿

子供たちは、初めて針と糸を使って製作する学習にとっても興味・関心をもって取り組む姿が見られます。しかし、針と糸を使う導入段階では「玉結び」「玉どめ」など、細かい作業の手順やコツがつかみにくく途中であきらめてしまう児童も少なくありませんでした。しかし、指先の細かい動きを拡大して見せることにより集中力を持続させながら作業手順やコツを説明することができました。また、児童の縫う様子や作品を拡大して発表させることにより、学習意欲が高まる姿が見られました。

子どもの声

- ・ 大きなスクリーンで勉強したので分かりやすかったです。
- ・ 玉結びの方法が写真ではよく分からなかったけれど、スクリーンに親指と人差し指の動かし方を大きく映して説明してもらったので、玉結びのコツがよく分かりました。
- ・ 自分の縫い方を友達に見てもらったときは恥ずかしかったけれど、みんなに褒めてもらってうれしかったです。